

## はじめに

### 国際結婚論!?

「私、将来、国際結婚したいので、先生の講義楽しみにしています。」

初就職の場が女子大(京都女子大学現代社会学部)で、「国際結婚論」という講義を担当していると「どのようにしたら、カッコいいガイジンをゲットできるのか」という講義だと勝手に早合点する人がいます。残念ながらその期待を裏切ることになるでしょう。……

本講義は、第Ⅰ部と第Ⅱ部から成り立っています。第Ⅰ部は歴史編、第Ⅱ部は現代編で、姉妹編になっています。現代だけ興味がある人は、【現代編】だけ読んでもわかるように工夫しました。しかし、現代に起こっている出来事は、実は歴史の闇とつながっています。男と女の歴史という観点から捉えなおすことによって、「へえ!」「なぜ!」「なるほど!」などあなたの頭の中にたくさんの「!?!」マークが浮かんでほしいという願いを込めて『国際結婚論!?!』なのです。

……

### 国際結婚をしているのは日本人男性? 日本人女性?

……国際結婚論という講義を、大半が1980年代後半生まれで日本人男性と結婚していくであろう「ふつうのお嬢様」である女子学生を前提にしていきます。しかし、「なぜ日本人女性は国際結婚に憧れるのか」という問いは、グローバルゼーションが進む今日、同年代の日本人男性にも深刻な問題です。将来の伴侶が日本人とは限らなくなってきた世代、それが1985年以降に生まれた世代ではないかと考えています。そのような娘、息子をもつ親と子どもたちが話し合うきっかけに本書がなればと願っています。「ふつうのお嬢様」だけでなく、娘、息子をもつ親世代にも本書を手にとっていただいて、娘や息子に問いかける虎の巻になればとも思います。

## 男と女を通して歴史感覚・国際感覚を身につける

国際結婚という現象を通して日本の近・現代社会の成立、変遷を理解することが、国際結婚論の目的です。自分たちの歴史にとどまることなく、「自分たちと彼ら」との関係の歴史であり、それが、現代の複雑で多様な社会を生み出しているのだ、という歴史感覚を養ってほしいという願いがあるからです。なぜ、そのような歴史感覚を身につけることが必要なのでしょう？ 「私は日本人男性と結婚するから関係ないわ」という人もいるかもしれません。しかし、あなた方の子どもたちの教室には、かならず1人は国際結婚による子どもがいる時代になっています。外国人が、隣人となる可能性も高まっています。

……国際結婚は、大雑把にいうと、日本人と外国人の婚姻です。「国際結婚」は法律用語ではありません。法律では、ある事柄を規律する法律関係が自国の法規だけでなく他国の法規にも関係をもつ結婚であることから、「涉外婚姻」といいます。つまり、一見、プライベートな個人の選択のようにみえる婚姻は、常に、他国との緊張状態のなかに成立しているということになります。その緊張状態とは、歴史的に起因するものであったり、経済的であったり、政治的であったり、宗教的であったりします。つまり、「国際結婚」研究とは、かなり広範囲に目配りしつつ、現代社会に起こる現象のひとつとして多角的に考えていく必要のある分野だといえるでしょう。

国際結婚研究は、歴史、政治、法学、地理、文学、文藝、人口学、統計、社会学など、さまざまな学問分野にまたがった研究領域です。この講義を通して、法学に興味をもったり、国際関係を本格的に勉強してみよう、と思う学生が1人でも2人でもでてきたら、教師冥利につきます。エア・ターミナルのなかでも経由したり、乗り継いだりするのに便利なエア・ポートのことをハブ空港といいます。行き先は自由。次はどの飛行機に乗るかを考えるのはあなた自身です。この講義は、そんな人々が行き交うハブ空港だと考えてください。スーツケースに何を詰め込むかは、あなたの好奇心次第です。